



土崎みなと歴史伝承館

# 伝承館だより

第15号



感謝祭出演者とお客様全員でのドンパン節

3月23日、土崎みなと歴史伝承館で「感謝祭2025」を開催しました。多くの方からお申し込みいただき、ありがとうございました。

当日は藤原美幸さんを進行役に迎え、出演者の唄や踊り、演奏とお客様が一体となり、盛会のうちに終わることができました。

今後も随時イベント等を開催してまいりますので、皆様の多大なるご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

(敬称省略)



満員御礼！



進行 藤原美幸



♪ 演者さん達の共演♪

## 戦後80年に思うこと



土崎港被爆市民会議  
会長 伊藤 紀久夫

80年前の日本は、現在も止むことなく続いているロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ地区への攻撃と同じような戦争をしていた。日本の国が明治の日清戦争からアジア太平洋戦争で敗北するまでの50年間、戦争に次ぐ戦争をし、そのほとんどが他国の領土に軍隊が攻め入り、資源の略奪や多くの人々の命を奪った戦争であった。1941年12月8日に突入したアジア太平洋戦争は、1945年8月15日にポツダム宣言の無条件降伏を受諾して終わった。この戦争の終わる前の日8月14日深夜から翌15日未明まで私たちの町土崎が空襲を受け250名以上の犠牲者を出した。時代はこの8月15日を境目に戦前・戦後と呼ばれるようになり、国のあり方、社会のルール、暮らしの考え方が大きく変わるようになった。何よりも国の最高法規である「憲法」の主権者が天皇から国民へと変わり、平和主義に徹して復興の道を歩むと世界の人々に宣言、約束して戦後のスタートを切ったのである。

私はこの新しい日本国憲法のもと戦後を過ごし、「戦前」とは違い一定の年齢になれば徴兵検査を受け、戦場で命を失うような心配もなくなり、憲法の前文と第9条に記された「戦争の放棄」「戦力の不保持」「交戦権の否定」のもと、誰一人殺さず殺されることもない時代に生きてきた。小学校入学当初から民主教育の恩恵を受け、自由な空気のもと勉学やスポーツに存分に打ち込ませてもらった。もちろん日々の暮らしは決して豊かではなかったが、不自由を耐え忍び、困難を克服しながら復興してきた日本と共に歩んできた世代である。日本の国が日中戦争につづくアジア太平洋戦争で、2,000万人以上と言われるアジアの人々の命を奪い、310万人以上の日本人も犠牲になったことを学び、この事実と数値の重さに驚いた。この「数字」には、犠牲者一人一人にあったであろう喜怒哀楽の人生が突然断ち切れ、非業の死を強いられた無念さと深い悲しみが込められ、この世に生まれ暮らしてきたという証の名前があったことを忘れてはならないと思う。戦後、遺族には働き手を失い、苦勞を背負っての過酷な暮らしが待っていた。また、日本の遺族と同じように外国の遺族の人たちがいることも忘れてはならないと思う。

私たちは今もなお戦争の「後」を引継いで生きていると思う。日本の負の歴史の事実はどう向き合い学べばいいのか、避けて通ることができずこれから先も問われていく課題だと思う。戦争をした時代が遠くなり、戦後世代が多くなるにつれて、平和な暮らしが当たり前になっている。しかし、「新しい戦前」と言われる言葉を目にし、聞かされるようになった。ウクライナやガザでの戦争や、日本の近隣諸国との軍事的緊張、摩擦が高まっている状況を、毎日のように流されるテレビの映像や新聞の報道を見て、「二度と戦争はダメ！」と強く思っている。でも、「また戦争する国になるのでは」と心配になる。「専守防衛に徹する」と言っていた日本の自衛隊は、他国が始めた海外の紛争や戦争に参加し、出動できる共同作戦の訓練に参加するようになり、これまで憲法違反と言っていた武力攻撃を受けていない段階で、他国を先制攻撃することが可能になった。さらに殺傷武器の輸出まで進めようとしていることに心が痛む。はたしてこの方向が「仕方ない、あたり前」の考え方なのかと思う。

今年は広島・長崎に原爆が投下されて80年の年でもある。被爆者が自ら先頭に立って「ノーモア広島、ノーモア長崎」という声を上げ、一筆一筆の署名活動が、全世界の市民の草の根運動に広がり、多くの国々が核兵器禁止条約の締結・批准に漕ぎつけ、日本被団協のノーベル平和賞の受賞になったことは「核兵器のない世界」への「希望の光」を灯す確かな力となり、私たちを勇気付け励ましてくれた。「土崎空襲」の講座では子供たちの「戦争は嫌い」「私たちが語り継いでいく」「平和のために何ができるか」などの力強い決意や言葉にいつも励まされている。私たちには平和主義の理念をもった日本国憲法、前文と第9条の「武力によるおどかしや行使は永久にこれを放棄する」とはっきり明文化された宝物である。なぜ日本が戦争し土崎空襲に至ったのか、原因を探り未来のために何をすべきか、何をしてはいけないのか、どう選択すればいいかを考え、話し合っていきたいと思っている。土崎港被爆市民会議が結成50年という節目に、日ごろ考え思っていることを思いつくまま述べさせていただきお礼申し上げたいと思う。今しばらく土崎の地から犠牲者の追悼と、平和の声を発信していきたいと思っている。

土崎港被爆市民会議  
会長 伊藤 紀久夫

# 伝承館 令和6年度下半期 リポート

令和6年度下半期も皆様のご協力を得て無事に各イベントが終了いたしました。  
催し物については、新年度も引き続き換気などの感染対策をとりながら行ってまいりますので、皆様のご来館をお待ちしております。  
以下、下半期に開催された催し物などを紹介いたします。

## ◆感謝祭2025 (表紙からのつづき)

期日：令和7年3月23日(日)

(敬称省略)



伝承館でしか踊らない北前船を披露...さおり



高橋 真理香



大川 あけみ



山上 衛



柿崎 竹美



感謝祭出演者の皆さん



浅野 保子



高橋 一郎



きり亭たん方

## ◆土崎みなと歴史伝承館講演会 「安東氏と秋田湊」

期日：令和6年11月16日(土)



かつて秋田平野を治めた安東氏とその拠点・秋田湊について、文献資料と考古学の調査成果からその実態に迫りました。

## ◆羽州街道歴史まつり2024 ～土崎神明社棟札からみる土崎のひと・まち・まつり～

期日：令和6年10月6日(日)



神社の改築や地域との密接な関係性が記録された棟札からみえる、ひと・まち・まつりについて楽しく分かりやすく講演。

## ◆土崎みなと歴史伝承館に熊出没



昨年11月29日の21:00頃に伝承館敷地内に熊が確認されました。  
これから暖くなり、熊の目撃も増えるのではないかと心配です。

◆秋田の北前船と舟運  
◆なつかしの土崎(同時開催)

期間：令和7年2月15日(土)～4月13日(日)

土崎の街に大きな繁栄をもたらした北前船。その船の資料や当時の土崎での商業広告などを展示し、土崎港周辺の繁栄ぶりを振り返りました。



◆戦争と土崎空襲展

期間：令和6年12月1日(日)～12月22日(日)

終戦前夜になぜ土崎が最後の空襲となったか、その意味と歴史を紐解き、失われた命の尊さをあらためて考えさせられました。



◆戦争体験を語る会  
◆「証言・土崎空襲」を語り継ぐ、学生らによる朗読会

期間：令和6年12月8日(日)

終戦前夜の土崎空襲で逃げ惑う人たちのリアルな体験談や学生の方々の朗読などが披露された。後世に伝えるべき戦争の悲惨さを決して忘れてはならないと思いました。



■秋田市土崎みなと歴史伝承館 利用案内

・開館時間：9:00～17:00 休館日：火曜日（休日の場合は翌日）、年末年始（12/29-1/3）

入館料：無料

・貸室の一般利用について：9:00～21:00 ※休館日は利用不可 利用料：無料

<利用回数等> 1日1回あたり1室4時間を上限に、4回/月まで利用可能（ただし、利用当月の20日以降に空きがあれば、追加利用ができる）

<利用条件> 地域の歴史および文化を通じた人づくり・街づくり・にぎわいづくり等に関する利用（営利目的での利用不可）

<貸室> 学習室1,2（通しでの利用可能）他の部屋についてはご相談ください。

<予約> 利用日の1ヶ月前から3日前まで

～ご利用希望の場合やお問い合わせは、当館窓口またはお電話にて～

令和7年4月発行 秋田市土崎みなと歴史伝承館 指定管理者：土崎みなと街づくり協議会

〒011-0945 秋田市土崎港西三丁目10-27 TEL：018-838-4244 FAX：018-838-4245

E-mail：zakiminato@cna.ne.jp URL：https://tuchizaki.com/

～あしがき～

今年度もクルーズ船の寄港が始まり、初日の4月2日には、たくさんの外国の方が訪れ、コロナ禍前の賑わいが少しずつ戻ってきました。地区でまだご覧になっていない方は、是非この機会にお越しいただき、外国の方と触れ合いながら、地元のお祭りの素晴らしさを体感していただきたいと思います。皆様のご来館をお待ちしております。  
(責：公)